

令和2年7月2日  
国立研究開発法人水産研究・教育機構

## 令和2年度常磐・三陸沖カツオ長期来遊資源動向予測（6～11月）

本予測は、水産庁の「水産資源調査・評価推進委託事業」により、資源の合理的利用や操業の効率化を目的として行っているもので、国立研究開発法人水産研究・教育機構が、関係試験研究機関による資源調査結果等を踏まえて、主に近海カツオ一本釣り漁業やまき網漁業の対象となる夏秋季の常磐・三陸沖におけるカツオの来遊動向について見通しを示すものです。

検討の結果、令和2年6～11月のカツオ来遊量は、「昨年および過去10年平均を下回る」と予測されました。

**本件照会先：**

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 国際水産資源研究所

担当 業務推進部 岩崎、余川

かつお・まぐろ資源部 清藤、津田、青木、南

電話：045-788-7517（かつおグループ横浜庁舎）

054-336-6043（かつおグループ清水庁舎）

**ファックス：**

045-788-5004（横浜庁舎代表）

054-335-9642（かつおグループ清水庁舎）

## 令和 2 年度常磐・三陸沖カツオ長期来遊資源動向予測（6～11 月）

本予測は、水産庁の「水産資源調査・評価推進委託事業」により、資源の合理的利用や操業の効率化を目的として行っているもので、国立研究開発法人水産研究・教育機構が、関係試験研究機関による資源調査結果等を踏まえて、主に近海カツオ一本釣り漁業やまき網漁業の対象となる夏秋季の常磐・三陸沖におけるカツオの来遊動向について見通しを示すものです。

検討の結果、令和 2 年 6～11 月のカツオ来遊量は、「昨年および過去 10 年平均を下回る」と予測されました。また、7 月のカツオの主な分布域は、「海面水温が 22～24 度の範囲であり、かつ、深度 20m において水温が高くなる方向が東ないし南向きである海域」を基に予測されました。

### 1. 来遊資源量指数

5 月上旬から下旬の竿釣り CPUE（※1）と 6 月以降の常磐・三陸沖の CPUE には、有意な相関関係があることがわかっています。この関係を用いて予測したところ、本年の常磐・三陸沖における 6 月以降の来遊資源量指数は「昨年および過去 10 年平均を下回る」と予測されました（図 1）。なお、本年 5 月はビンナガ主体で漁獲されていたため、5 月のカツオ資源量指数の情報は極めて限られています。したがって、2020 年の予測値に関しては、例年よりも不確実性が高いと予想されます。

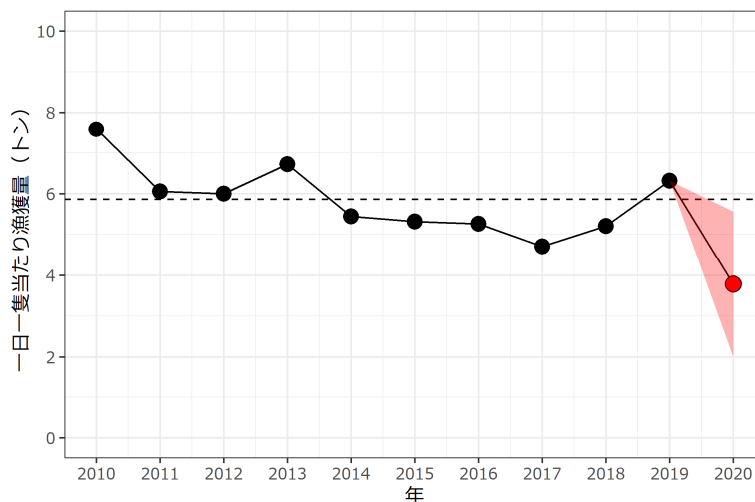


図 1. 過去 10 年間の 6～11 月の近海竿釣り船による CPUE の経年変化と予測された 2020 年の CPUE 水準（赤マーカー）。図中の点線は過去 10 年間の平均値（2010～2019 年）、赤領域は 80% 予測区間を示す。

※1 CPUE : Catch Per Unit Effort（1 日 1 隻あたりの漁獲量）

## 2. 主分布域 (※2)

カツオは主に暖水の張り出し及び暖水塊の北縁部西寄りに分布する傾向があります。水産研究・教育機構の海況予測システムのFRA-ROMSによる7月の予測水温データをもとに、7月のカツオの主分布域を予測しました(図2)。7月にカツオが多く分布するのは、海面水温が22~24度の範囲であり、かつ、深度20mにおいて水温が高くなる方向が東ないし南向きである海域です。

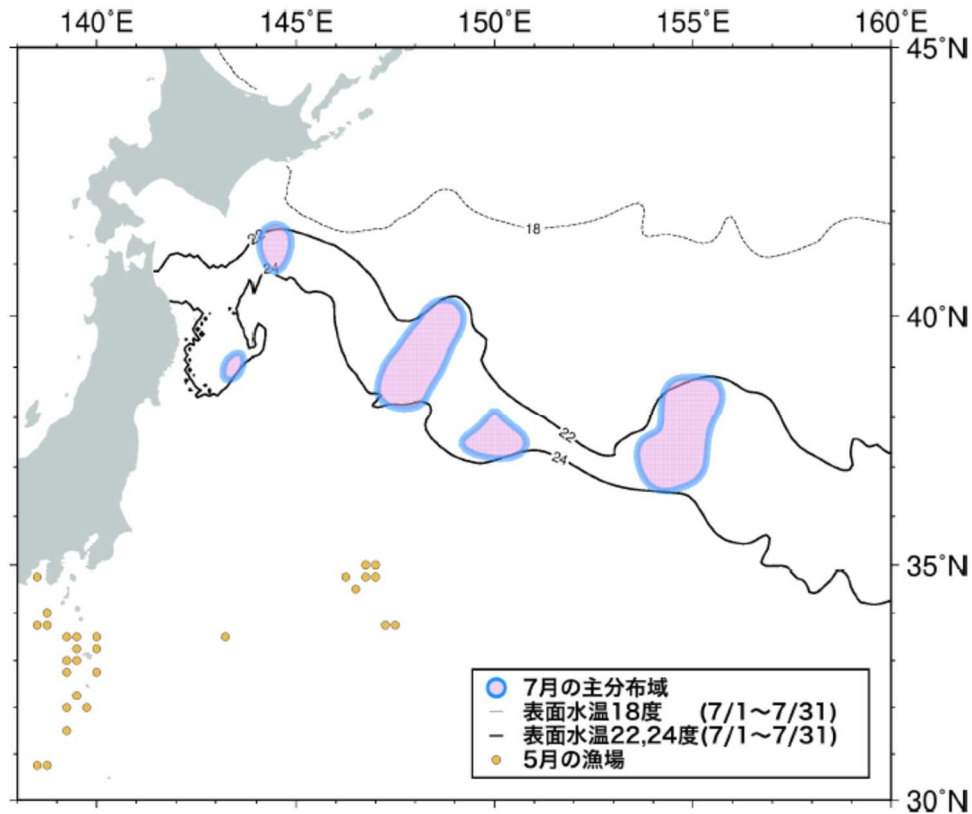


図2. 2020年7月のカツオ主分布域の予測

※2: 主分布域は、10月の予測まで1ヶ月毎に予測します。8月以降の予測結果は、関係者にメールにて提供致します。

## 3. 魚体

2020年5月下旬現在、主に伊豆・小笠原諸島周辺に形成されている漁場で漁獲される魚体のサイズは尾叉長55~60cmが主体で、これから北上すると予想される尾叉長45cm前後の個体も漁獲されています。過去の体長組成の季節的推移から、尾叉長45cm(1.8kg前後)の個体が常磐・三陸沖に北上し、10~11月には54cm前後、体重3.0kg前後の個体が漁獲の中心となると考えられます。